



若竹だよい



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩
郷土の恩・大自然の恩

【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八カ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】 日本の文化

園長 宮竹 恒

6月末、梅雨の雨を吹き飛ばすように和太鼓の爽やかな音が響きました。

毎月、子どもたちに和太鼓を教えて頂いている和太鼓集団「満天」さんが、演奏を披露してくださいました。子どもたちは、演奏に聴き入り、中には太鼓に合わせてリズムを取っている子どももいました。地域の祭囃子、風土を曲にした創作曲を聴き、とても懐かしい気持ちになりました。これまで学園夏祭りや太鼓慰問の際に子どもたちが披露してきた「若竹太鼓」「三宅太鼓」の演奏を聞いているうちに、退園生の顔が浮かんできました。コロナ禍でこれまで積み重ねてきた活動が十分に出来ない状況ではありますが、伝統を繋いでいくことの大切さを改めて感じました。

子どもたちは、学園での生活を通し、五色台の自然に触れ、日本の大切な文化に触れる機会があります。和太鼓、日本舞踊、遍路小屋活動等の活動です。活動は、子どもから子どもへ学園の伝統として継承しています。

日本の文化を知ること、日本という国の素晴らしさを知ることであり、自分自身の素晴らしさを知ることでもあると思います。

—了—



動作法 古本先生

1年前から毎週金曜日に実施しています。たくさん子どもたちが、古本先生が来るのを楽しみにしています。



「シュシュシュ」「力を抜いて」とセラピストが言葉をかけながら腕を挙げている様子です。人は、からだに力を入れることは比較的得意ですが、力を抜くことは意外に難しいものです。また、自分が動かしているにもかかわらず動いているからだの部分に注意を向けることや自分の姿勢を意識することはできにくいものです。からだを無視した人間はあり得ないのですが、日頃は自分のからだに意識を向けていないことが多いのです。人はストレスの対処法としてからだのある部分に力を入れて（筋緊張）身構えます。この筋緊張が継続し慢性緊張となり姿勢のゆがみや腰痛、肩こりなどの身体症状として表れます。動作法は、こころとからだ一致して人が社会生活に適応できるように動作を通して援助する心理療法です。



日本舞踊

毎週水曜日に、3人の先生方に来ていただき女の子が日本舞踊のお稽古をしています。

子どもたちが自分の好きな着物や帯が選べるようにと、いつもたくさんご用意してくれています。6月からは、稽古着の着物も浴衣へと衣替えしました。

去年から稽古を続けている子は、先生に補助してもらえば自分で着物を着ることができています。お稽古が終われば、自分で着物を綺麗にたためています。今年度から始めた子どもの成長も目を見張るぐらいとても早いです。先生方の優しい言葉かけや所作に包まれて、とてもふんわりした和みの時間になっています。

今年度も、日本舞踊を通して様々な活動を取り入れていきたいと思っています。



男の子のフーム

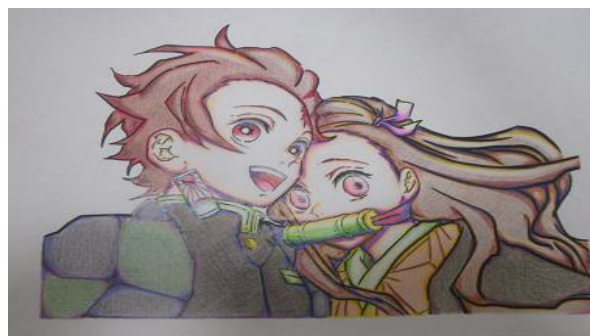
男の子が熱中しているのは、サッカーとカードゲームです。子どもの夢中になっていることを職員も一緒に楽しみ、応援しています。



暑くなってきましたが、晴れの日ほぼ毎日、たくさんの男の子が園庭でサッカーを楽しんでいます。様々な年齢の子どもたちが参加する中で、中学生を中心に役割や作戦を工夫しながら取り組む姿に、職員も感心することも多くあります。

天気や場所をあまり気にせず楽しめるカードゲームは、男子がほぼ全員やっています。ちょっとした空き時間があれば、いつもどこかで楽しそうにデュエルマスターズをしている声が聴こえてきます。最近では、なかなか手に入れないカードを紙片に書き写し、カードのバリエーションを増やす子どもたちも増えてきました。

女の子のフーム



最近女子の間でぬりえが流行っています。色鉛筆を何色も重ねて、丁寧に塗っており、その出来は見事なものです。

既存のぬりえだけでなく自分でオリジナルキャラクターを考え、色塗りまでしている子どももいます。

お互いに教え合ったり、褒め合ったりしている姿は、周りまで何ともいえない心地よい雰囲気につつまれます。これからどんな作品ができるか、楽しみです。



青峰・若竹学級だより

進路学習

中学生全員を対象に学校1階ホールで進路学習を行いました。中学校卒業後の進路には様々な選択肢があることや、高校だけでもたくさんの種類があることを知り、一人一人が自分の将来について真剣に考えることができました。



根来寺へ

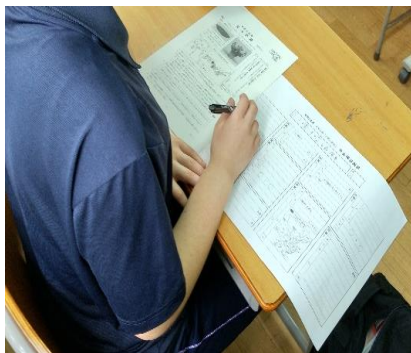
小・中学生全員で根来寺へフィールドワークに出かけました。道中は小鳥のさえずりに耳を澄ましたり、道端の小さな花を見つけたりしながら進みました。朝礼で根来寺の由来や牛鬼伝説などの話を聞いていたので、根来寺に到着すると牛鬼像や白猴櫓の説明に興味深そうに読んでいる子どももいました。



本堂にお参りした後、みんなでそろって学園まで歩きました。

学習の診断&1学期末テスト

中学校3年生は第1回学習の診断に臨みました。1校時から5校時まで5教科連続でテストを受け、終了時には疲れた様子でしたが、日頃の学習の成果を発揮するべく努力していました。



その1週間後には1学期末テストも行われ、中学校1～3年生が真剣に取り組んでいました。

ティータイム

小学校では家庭科で「おいしいお茶のいれ方」を学習し、実際にお茶を入れました。



調理実習

小・中学生全員でどら焼きを作りました。生地をこねるところから始め、それぞれ自分の分を焼き上げると、中にフルーツやクリーム、餡などをはさみ、完成させました。できたものはすぐにラップで包んで食堂へ届け、



昼食時に食堂で自分オリジナルのどら焼きを食べました。

社会福祉法人四恩の里決算報告

令和2年度 事業活動収支計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31 (単位:円)

勘定科目	決算額
児童福祉事業収益	438,531,962
経常経費寄附金収益	1,821,068
その他の収益	0
サービス活動収益計①	440,353,030
人件費	271,918,159
事業費	67,690,479
事務費	29,912,304
減価償却費	40,117,765
国庫補助金等特別積立金取崩額	-20,280,273
徴収不能額	0
サービス活動費用計②	389,358,434
サービス活動増減差額③(①-②)	50,994,596
サービス活動外収益計④	4,434,147
サービス活動外費用計⑤	3,948,634
サービス活動外増減差額⑥(④-⑤)	485,513
経常増減差額⑦(③+⑥)	51,480,109
特別収益計⑧	587,591
特別費用計⑨	187,501
特別増減差額⑩(⑧-⑨)	400,090
当期活動増減差額合計⑪(⑦+⑩)	51,880,199
前期繰越活動増減差額⑫	455,210,984
当期末繰越活動増減差額⑬(⑪+⑫)	507,091,183
基本金取崩額⑭	0
その他の積立金取崩額⑮	5,539,909
その他の積立金積立額⑯	45,000,000
次期繰越活動収支差額⑰(⑬+⑭+⑮-⑯)	467,631,092

令和2年度 貸借対照表

令和3年3月31日現在 (単位:円)

資産の部	
流動資産	150,500,613
基本財産	970,739,057
その他の固定資産	254,620,092
資産の部計	1,375,859,762
負債の部	
流動負債	53,232,964
固定負債	28,076,382
負債の部計	81,309,346
純資産の部	
基本金	114,373,888
国庫補助金等特別積立金	497,136,723
その他の積立金	215,408,713
次期繰越活動収支差額	467,631,092
純資産の部計	1,294,550,416
負債及び純資産の部合計	1,375,859,762

令和2年苦情・要望件数

1	受付件数	総数:18件	
2	受付方法	苦情ボックスを若竹学園の玄関に設置	
3	苦情申出人	利用者:18件	
4	内容	学園日常生活に関すること	苦情:3件 要望:11件
		娯楽・外出に関すること	要望:4件

6月行事

7日	中学3年生診断テスト
17日 18日	誕生日ケーキづくり
22日	通報・避難訓練

在籍人数

令和3年7月1日現在

区分	県内(人)	県外(人)	合計(人)
小学生	4	4	8
中学生	13	0	13
合計	17	4	21



編集後記

だんだん暑さが本格的になっており、学園でかき氷を作って食べました。

何杯もおかわりする子もいて、賑やかな一日となりました。一足先に夏の訪れを感じることができてよかったです。 大室



第327発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000

FAX 087-882-1160

ホームページ

<http://4on.or.jp>

Eメール

wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者

若竹学園 編集委員

発行責任者 宮竹 恒



園生のイラスト紹介